

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和2年10月16日

(2) 調査対象期間 令和2年7月～9月期実績および令和2年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	25社	83.3%
建設業	30社	24社	80.0%
卸売業	30社	21社	70.0%
小売業	35社	29社	82.8%
サービス業	25社	21社	84.0%
合計	150社	120社	80.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

令和2年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」11.7%、「悪化企業」60.8%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△49.1となっています。

前年同期（△12.8）との比較では36.3ポイントの悪化傾向を示しました。また、前期調査<令和2年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△54.1→今回△49.1と5.0ポイントの好転傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△68.0、建設業D・I値△12.5、卸売業D・I値△52.4、小売業D・I値△55.2、サービス業D・I値△57.1となっており、前年同期調査と比較すると、建設業のみで8.4ポイントの改善が見られましたが、製造業で68.0ポイント、サービス業で57.1ポイント、小売業で37.9ポイント、卸売業で29.3ポイントの大幅な悪化となっており、予断を許さない状況が続いています。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」11.7%、「悪化企業」58.3%でD・I値△46.6と、前年同期見通し（△27.4）に比べ19.2ポイントの大幅な悪化となっており、厳しい状況が続く来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」12.0%、「減少企業」64.0%、D・I値△52.0と前年同期（△3.8）に比べ48.2ポイントの大幅な悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」4.0%、「悪化企業」60.0%、D・I値△56.0と前年同期（△11.5）に比べ44.5ポイントの大幅な悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△48.0、生産高D・I値△40.0、資金繰りD・I値△44.0と、前年同期に比べ全てのD・I値で大幅な悪化を示しました。

2) 建 設 業

完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」37.5%、「減少企業」41.7%、D・I値△4.2と、前年同期（△33.3）に比べ29.1ポイントの大幅な好転となりました。

採 算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」33.3%、D・I値△8.3と、前年同期（△29.2）に比べて20.9ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△41.7、完成工事高D・I値△45.8、資金繰りD・I値△25.0と前年同期と比べ業況は変わらないものの、他のD・I値は悪化傾向を示しました。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」14.3%、「減少企業」66.7%、D・I値△52.4と前年同期(△11.5)と比べ40.9ポイントの大幅な悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」52.4%、D・I値△38.1と前年同期(△30.8)に比べ7.3ポイントの悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△52.4、売上高D・I値△52.4、資金繰りD・I値△23.8と前年同期に比べすべてのD・I値で大幅な悪化を示す結果となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」10.3%「減少企業」62.1%、D・I値△51.8と前年同期(△21.8)に比べ30.0ポイントの大幅な悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」10.3%「悪化企業」55.2%、D・I値△44.9と前年同期(△21.8)から23.1ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△41.4、売上高D・I値△41.4、資金繰りD・I値△41.4と前年同期と比べ全てのD・I値で大幅な悪化傾向を示しました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」4.8%、「減少企業」66.7%、D・I値△61.9と、前年同期(0.0)に比べ61.9ポイントの大幅な悪化を示しました。

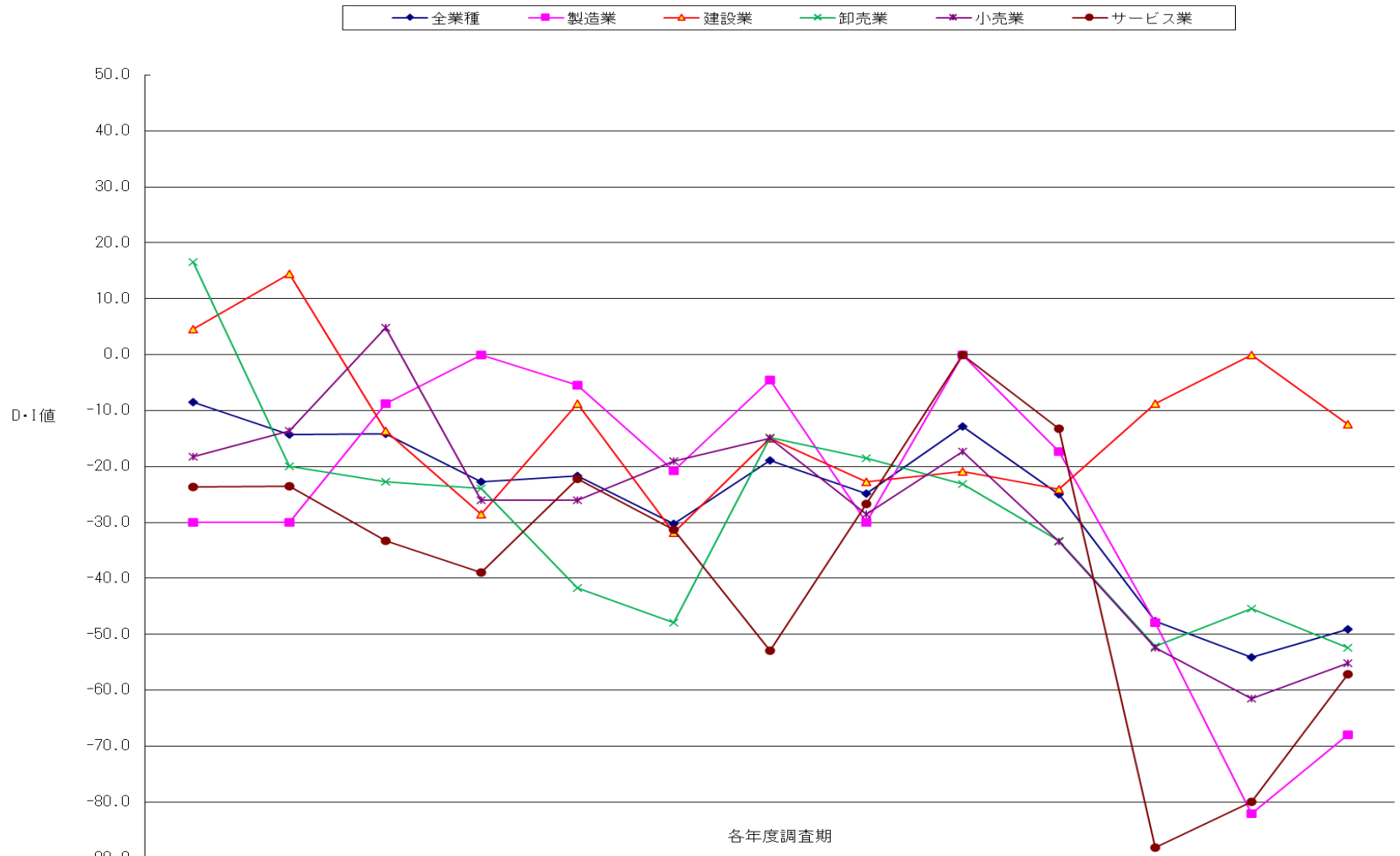
採算

前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」66.7%、D・I値△66.7と前年同期(△5.6)に比べ、61.1ポイントの大幅な悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△52.4、売上高D・I値△52.4、資金繰りD・I値△52.3と前年同期に比べ、業況と売上高のD・I値は3.2ポイントの好転を示しましたが、資金繰りは大幅な悪化を示しました。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	29.7~9 平成29年度 II	29.10~12 平成29年度 III	30.1~3 平成29年度 IV	30.4~6 平成30年度 I	30.7~9 平成30年度 II	30.10~12 平成30年度 III	31.1~3 平成30年度 IV	31.4~1.6 令和元年度 I	1.7~1.9 令和元年度 II	1.10~1.12 令和元年度 III	2.1~2.3 令和元年度 IV	2.4~2.6 令和2年度 I	2.7~2.9 令和2年度 II
◆ 全業種	-8.5	-14.3	-14.2	-22.8	-21.7	-30.2	-18.9	-24.8	-12.8	-25.0	-47.7	-54.1	-49.1
■ 製造業	-30.0	-30.0	-8.7	0.0	-5.5	-20.8	-4.6	-30.0	0.0	-17.3	-47.9	-82.1	-68.0
▲ 建設業	4.5	14.4	-13.7	-28.6	-8.7	-31.9	-15.0	-22.7	-20.9	-24.0	-8.7	0.0	-12.5
× 卸売業	16.6	-20.0	-22.8	-23.9	-41.7	-47.9	-14.8	-18.5	-23.1	-33.3	-52.2	-45.4	-52.4
✱ 小売業	-18.2	-13.7	4.8	-26.1	-26.1	-19.1	-15.0	-28.6	-17.3	-33.4	-52.4	-61.5	-55.2
● サービス業	-23.6	-23.5	-33.3	-38.9	-22.2	-31.3	-52.9	-26.7	0.0	-13.3	-88.2	-80.0	-57.1

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合
合 計	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種でみると、前回調査で2位だった「人材不足」が1位となり、前回1位だった「得意先減少」が2位となり順位が入れ代わった。その他の順位に変動は無かった。

また、業種別でみると製造業、卸売業、小売業では「得意先減少」がトップとなっており、新型コロナウイルス感染症による売上減少等大きな影響を受けていることが伺える。加えて、人材不足や新型コロナウイルス感染対策等による諸経費の増加など、それぞれの業界が抱える問題は一層深刻になっていることが伺える。

※その他及び具体的な業界の問題点と新型コロナウイルスによる影響についての記載事項

(製造) ○新型コロナウイルスの影響は、現時点ではさほど無いが、今後の世の中の動きがつかみづらい。

○設備が老朽化してきているので、更新しなければいけないが、なかなか決断できない。

○年度明けから7月までは客足がまったくなく、8月に入り少し動きが出てきたように感じる。

(建設) ○発注開始時期の遅れ、および発注件数の減少による受注の減少。

(卸売) ○イベント減少による売上減少。

○飲食店、イベント関連のお客様からの受注減。

○今後の仕事量が見えてこない。

○業界内の会議や会合がなくなり、情報が不足気味。

(小売) ○新型コロナウイルスで客足が減少した時期があったが、気に掛けてくれるお客様も多く前向きな考えや行動が出来た。

○例年開催されていた行事が全て中止になり、本当に張り合いのない1年で終わりそう

商店街も変わらず人影もまばらで淋しい限りです。以前の活気ある商店街に戻ってほしい。

(サービス) ○今期売上前年の約7割。来期以降も宴会等団体予約が見込み薄のため厳しい状況が続く。

○新型コロナウイルスの為の諸経費の増加と、イベント等の中止に伴う売上減少と利益の低下。

○宿泊、宴会、会合、法要等、仕出し以外の部門においては軒並み前年比5割程度の売上となっている。宿泊は稼働率が7割程度まで回復しつつも単価が低い状態となっており、売上の回復は厳しい状況。

業 況

製造業 ⇒ 好転 (製麺)

悪化 (木製品、印刷、菓子、農産物加工、飴、食肉、ビール製造、一般製材
建具、家具、鋳物製造、石材加工、農業機械金属、石灰製品、帆布製品)

建設業 ⇒ 好転 (舗装、給排水)

悪化 (板金、塗装)

卸売業 ⇒ 好転 (業務用食品・一般製材)

悪化 (青果物、鉄鋼、米穀、製菓原材料、酒類、家電、陶磁器、鋼材、医療機器、
事務機器、種苗、石油製品、建築金物)

小売業 ⇒ 好転 (家電、プロパン)

悪化 (紳士婦人服、自動車、食肉、酒、機械工具、農業機器、靴、時計、花卉、火薬、
画材、米穀、生鮮食品)

サービス業 ⇒ 好転 (なし)

悪化 (ホテル、クリーニング、ビルメンテナンス、理容、仕出し、自動車賃貸)

(※太字アンダーライン表示は重複該当業種)